



様式第2号

令和元年10月24日

坂戸市議会議長 様

会派名 民政クラブ  
代表者名 加藤則夫



実施報告書

下記のとおり、調査研究等を実施したので報告します。

記

- 1 期 日 令和元年10月23日(水) 午後1時30分～3時30分
- 2 参加者氏名

加藤則夫	小川直志	石井 寛	森田文明

- 3 調査研究等の行き先及び内容

行き先	内 容
坂戸市役所 全員協議会室	坂戸市議会議員研修会 「2019・2020のレガシーと本県スポーツの未 来」

- 4 概要  
別添のとおり

# 令和元年度 議員研修会報告書

## 民政クラブ

1. 期 日 令和元年10月23日(水) 午後1時30分～3時30分

2. 研修の内容

講演「2019・2020のレガシーと本県スポーツの未来」

講師：埼玉県県民生活部スポーツ局 参与 久保 正美 先生

3. 参加者 4名全員

小川 直志、加藤 則夫、石井 寛、森田 文明

4. 結果(参加者意見・感想)

◎ 2019年のラグビーワールドカップそして2020年のオリンピック・パラリンピックの開催を見据えての組織強化かもしれないが、埼玉県では知事部局にスポーツの所管において、県庁あげて横断的体制でスポーツの振興に取り組んでいる。

本市では、教育委員会でスポーツを所管しているが、スポーツは市民の健康づくりに欠かせない重要な施策である事を考慮すると、本市も所管を市長部局に位置付け横断的に施策を展開する必要性があるものとする。

◎ 2025年問題、或いは、2040年問題を考えた時、持続可能な坂戸市を築いてゆくには市民の健康づくり、健康寿命の延伸策を徹底的に実施し医療費と公費負担の抑制を図ることが必要不可欠である。今回の研修を受講しスポーツの持つ可能性を最大限活かしながら市民の健康づくりを強化していくことの必要性を感じた。

◎ 2019年のラグビーワールドカップ、2020年のオリンピック・パラリンピックの開催にあたり、坂戸市の関わりは聖火リレーだけである。

研修を受講して、将来の坂戸市を担う児童・生徒に対するスポーツ教育としてのオリンピック・パラリンピックへの関わり、坂戸市民として国家的事業であるラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック両事業への関わりを市施策としてもっと積極的に行っていく必要があるのではないかと感じた。

◎ 研修を受講し、今からでは遅いが官民をあげて事前トレーニングキャンプ誘致やホストタウン登録を本市としても行って、児童・生徒を中心とした市民と参加国との国際交流を推進するとともに、併せて、本市のシティープロモーションと市内経済の活性化を図ることも一方策ではなかったかと自分自身悔やむ思いである。